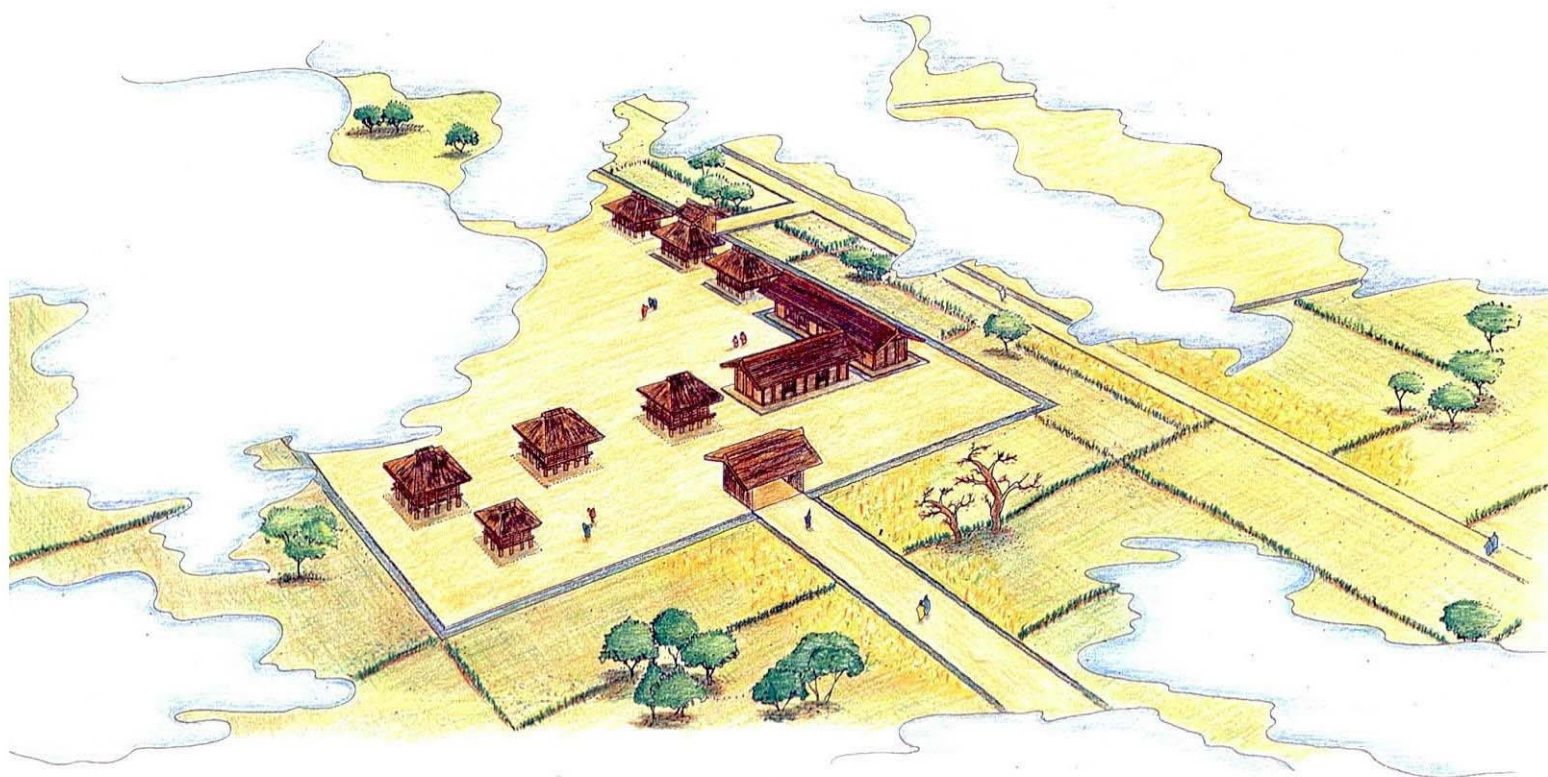


しも たか はし うえ の
下高橋上野遺跡 II

福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋所在遺跡の調査概報
(平成5・6・7年度調査)

大刀洗町文化財調査報告書

第 10 集



1996

大刀洗町教育委員会

序

平成4年度に発見されました「下高橋上野遺跡」は、「地方官衙の第一級遺跡」として、発見当初より関係者・関係機関からその重要性を指摘されてまいりました。大刀洗町教育委員会ではその重要性を認識し、遺跡の範囲・性格を明らかにするための発掘調査を地元の方々のご協力を得ながら平成5・6・7年度と継続して実施し、一応の成果を挙げることができました。また隣接する「下高橋馬屋元遺跡」と相まって、この地が古代に大変重要な地であったことも明らかになりつつあります。

本書は、その成果を概報としてまとめたもので、今後整理作業が終了次第本報告書も刊行する予定です。

調査にあたりまして、地元及び地権者の皆様には深いご理解とご協力を賜りました。ここに記して感謝の意を表します。

平成8年3月31日

大刀洗町教育委員会

教育長 堀 内 剛 毅

例言

- 1 本報告書は平成5・6・7年度に大刀洗町教育委員会が実施した福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋3347ほかに所在する埋蔵文化財の確認調査の概報である。
- 2 遺構の実測図は、平田浩子・平田久美子・川波律子・野口祐子・山本カヨ・近藤美恵子・矢野及び赤川による。
- 3 本書の写真は、空中写真はフォトオオツカ・(有)空中写真企画の機器を使用し、「小郡官衙遺跡」の写真は小郡市埋蔵文化財調査センター、「下高橋馬屋元遺跡」の写真は福岡県教育委員会の提供を受け、他は赤川が撮影した。
- 4 本書における方位はすべて座標北で、図上の座標は国土調査法第II座標系による。
- 5 本書の執筆及び編集は赤川が行った。
- 6 表紙下高橋上野遺跡・馬屋元遺跡推定復元図は、田上稔図を一部改変し、彩色は橋之口雅子による。



I はじめに

1 調査の経過

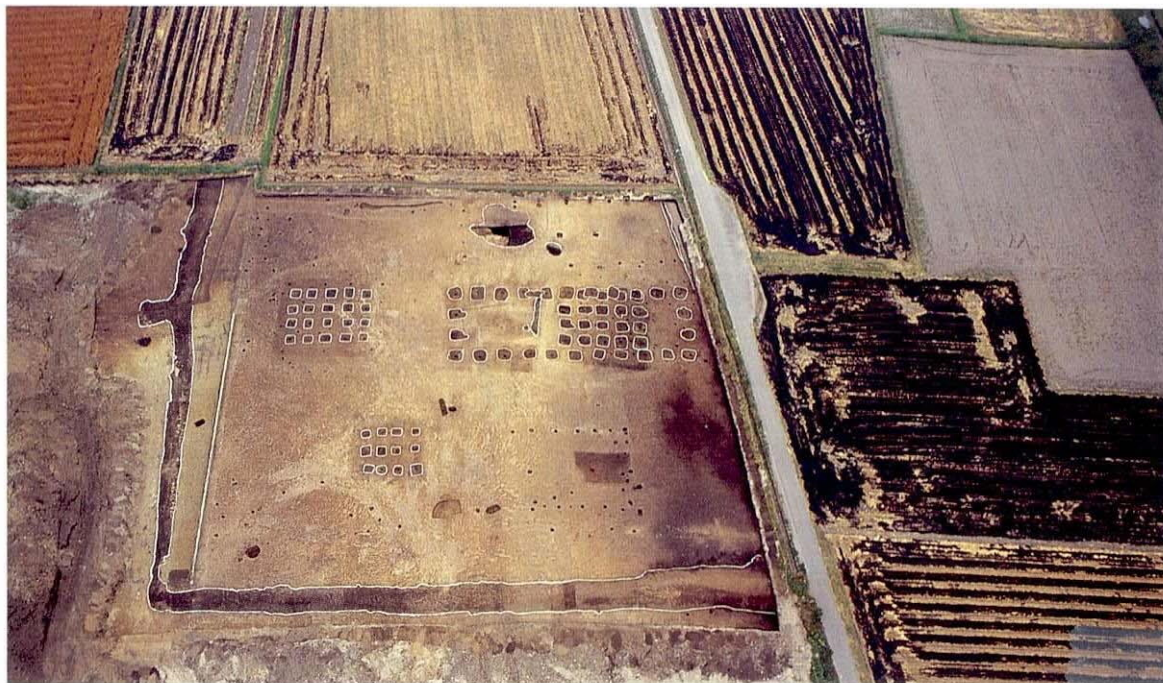
「下高橋上野遺跡」は平成4年度の緊急調査で発見された遺跡である。平成4年度の調査に至る経過は、「下高橋上野遺跡（1993）」（以下「概報Ⅰ」という）に述べている。平成4年度の調査で、「郷」関係の官衙ではないかと考えられ、調査後半からは保存を前提に調査を実施している。

平成5年度以降は、国庫・県費補助を受け遺跡の範囲を確認するための調査を計画したが、5年度は大刀洗町教委では「本郷鶯塚1号墳」・「甲条神社遺跡」の緊急調査が急遽実施することになり、「下高橋上野遺跡」の調査は10日弱であった。遺跡範囲を1町四方と想定してトレンチを入れた。主な成果として、範囲は1町四方を超える規模であること。大規模掘立柱建物がさらに3棟以上確認したことがあげられる。

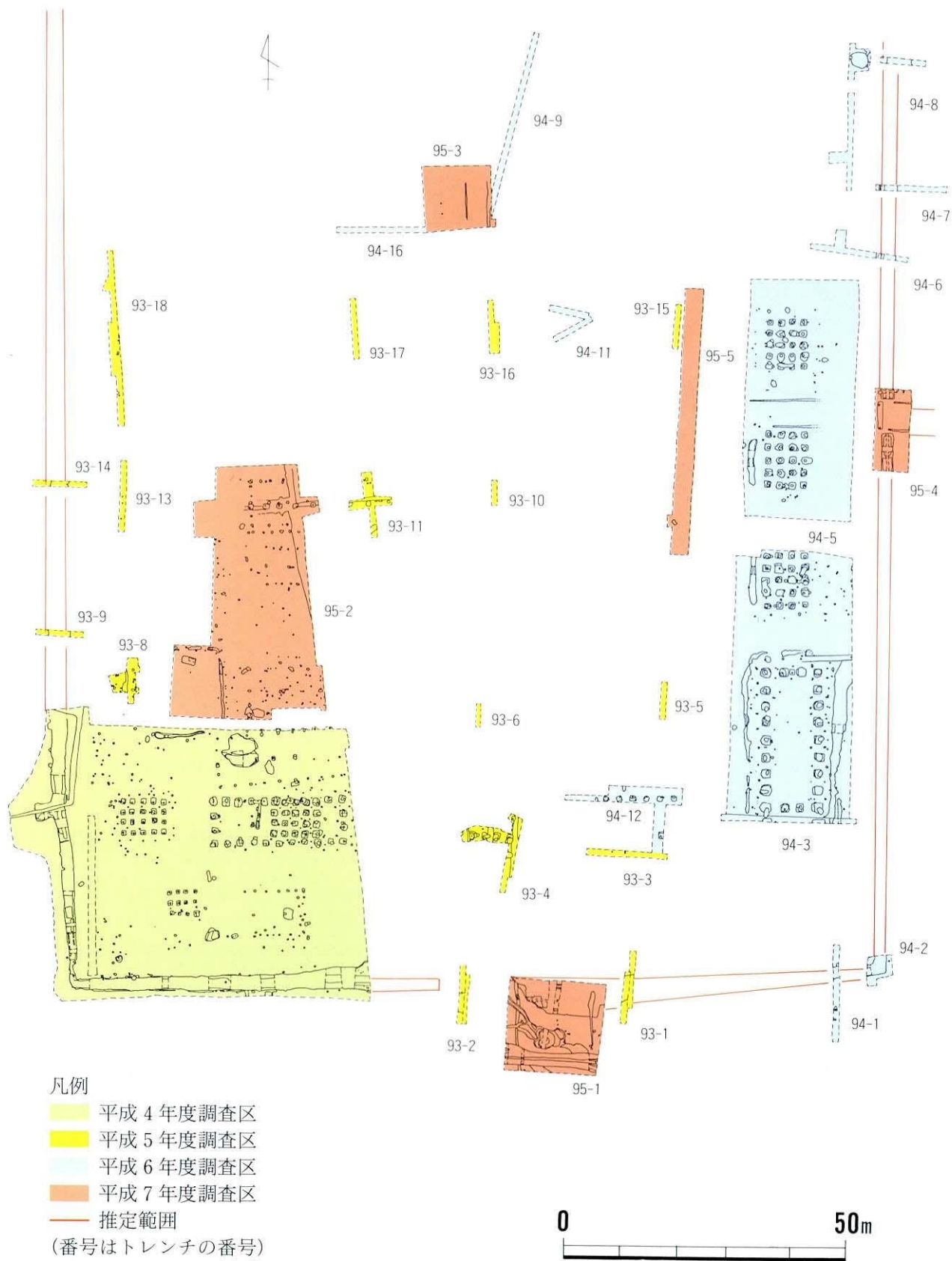
平成6年度は、遺跡範囲を1町半と想定してトレンチを入れ、ほぼ範囲を確定することができた。また、大規模掘立柱建物も5棟確認し、内4棟は地権者の大きな理解と協力のもとにその規模をほぼつかむことができた。遺物でも転用硯1点の出土を見、遺跡の性格を知るうえで大きな成果をあげることができた。

平成7年度は、出入口の位置特定・建物配置を明らかにすることを目指し、トレンチ及び発掘区を設定した結果、東出入口と進入路を検出し、南出入口の位置もほぼ確定した。平成4年度の調査地点北側では大規模な建物はなかったことと、平成5年度調査で建物と考えていた柱穴は柵列であったことなどの成果もあげた。

なお、平成7年度、本遺跡の東の濠から約200mの地点で、県道改良工事に伴う「下高橋馬屋元遺跡」の発掘調査を福岡県教育委員会が実施しているが、南北で濠を外側、小溝を内側にして区画した中に大規模な掘立柱建物群が発見された。「下高橋上野遺跡」・「下高橋馬屋元遺跡」は双方合わせて注目すべき官衙といえるであろう。



下高橋上野遺跡平成4年度調査区全景



下高橋上野遺跡年度別調査区位置図 (1/1,000)

2. 調査の体制・組織

「下高橋上野遺跡」の重要性は関係者から常に指摘されているところで、大刀洗町教育委員会では平成7年度に、今後「下高橋上野遺跡」の調査指導と取扱いを検討するために「下高橋上野遺跡調査指導委員会」を設置した。

下高橋上野遺跡調査指導委員会

- (学識経験者) 高倉 洋彰 (西南学院大学：考古学)
田中 正日子 (第一経済大学：古代史)
小林 茂 (九州大学：人文地理)
横田 賢次郎 (九州歴史資料館：考古学)
(町議会) 平田 喜次郎 (町議会議長)
青木 康雄 (総務文教厚生委員会委員長)
(地元代表) 古賀 倬馬 (地権者・町議会議員)
一木 治男 (工事田土地改良区理事長)
久保山久義 (下高橋区長)
(農業委員会) 柳 正嗣 (大刀洗町農業委員長)

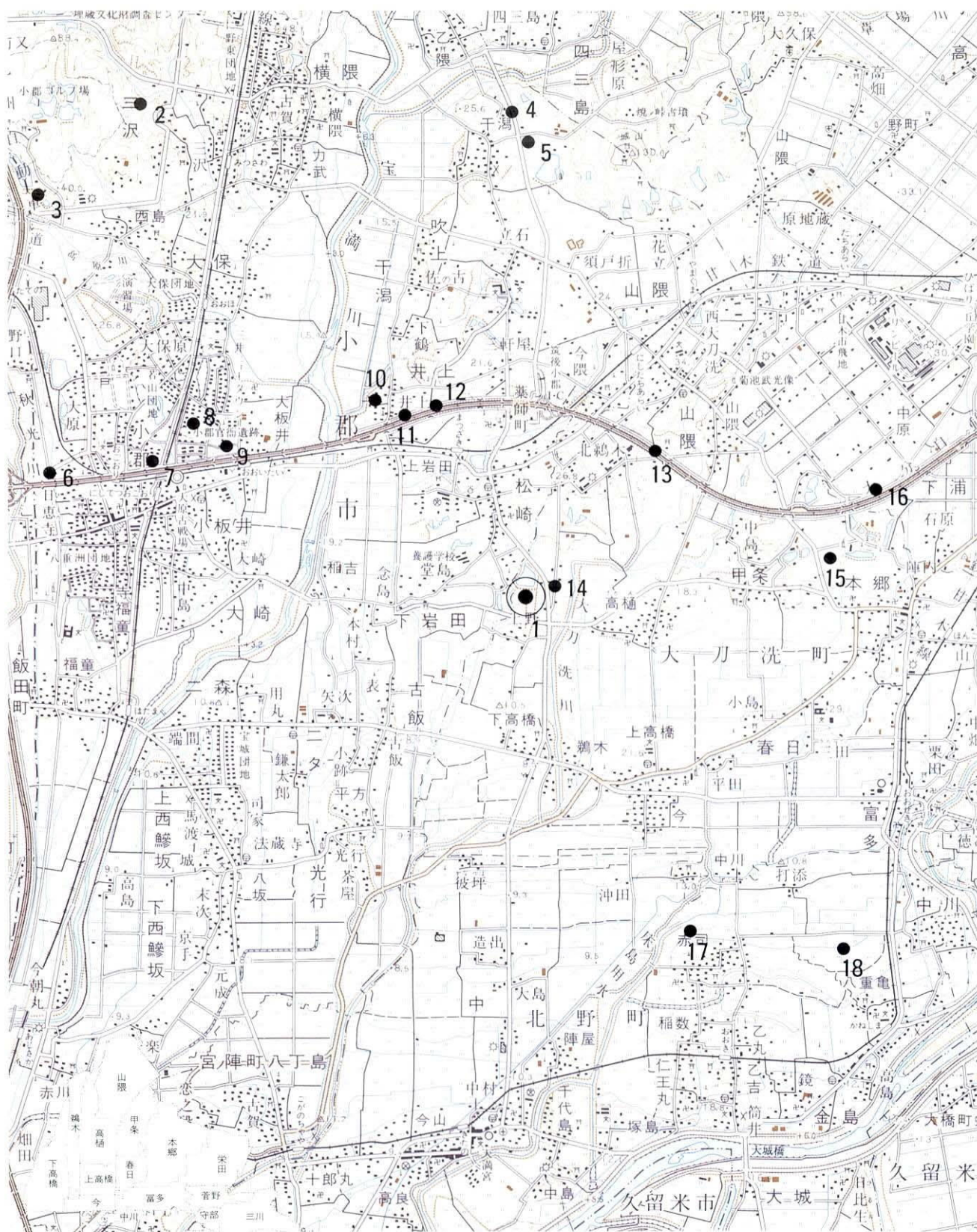
以上のほかに、大刀洗町文化財専門委員・県教育委員会文化課担当者・北筑後教育事務所担当者・町役場(町長ほか関係課長)が委員会に出席し、平成7年12月11日に第1回、馬屋元遺跡の存在が明らかになった平成8年3月6日に第2回の委員会を開催した。

また、文化庁記念物課 増淵 徹、西田健彦、坂井秀弥の諸氏には調査・保存関係について、指導助言をいただいた。

大刀洗町教育委員会の平成5・6・7年度の調査体制は以下のとおりである。

- 教 育 長 堀内 剛毅
教 育 課 長 平山 政之 (平成7年6月まで)
秋吉 純一 (平成7年7月から)
文 化 財 係 赤川 正秀 (調査・庶務担当)
調査補助員 矢野 和昭 (平成6年度・現新吉富村教育委員会)

なお、調査計画に際しては、福岡県教育委員会 橋口達也氏、北筑後教育事務所 赤司善彦氏に的確な指導を受け、建物及び遺跡鳥瞰図の推定復元は福岡県教育委員会文化課 田上稔氏の手を煩わせた。



下高橋上野遺跡と周辺の歴史時代遺跡（1/50,000）・大刀洗町大字界図

- | | | |
|-----------|------------|-------------|
| 1 下高橋上野遺跡 | 7 前伏遺跡 | 13 宮巡遺跡 |
| 2 三沢・栗原遺跡 | 8 小郡官衙遺跡 | 14 下高橋馬屋元遺跡 |
| 3 西島遺跡 5 | 9 大板井遺跡 | 15 本郷野開遺跡 |
| 4 干潟遺跡 | 10 井上廃寺 | 16 宮原遺跡 |
| 5 干潟城山遺跡 | 11 井上薬師堂遺跡 | 17 良積遺跡 |
| 6 正尻遺跡 | 12 薬師堂東遺跡 | 18 古賀ノ上遺跡 |

II 地理的・歴史的環境

下高橋上野遺跡は福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋3291ほかの所在し、朝倉山塊の末端の城山（花立山）から派生した丘陵の最南端、標高約14mの地点に位置する。西へ約2kmに宝満山中に源する宝満川（旧名得川）、東約400mに城山丘陵からわき出す大刀洗川が南流し、北側に丘陵を配し南面に開けた筑後平野を望む。

南面に開いた平野部には、現在ほ場整備で失われているが、方形の字境が見られ、条理制方形区画の名残をつい最近まで残していたことがうかがえる。大字境も例えば「鷯木」では東西が最大で約400m、南北が約3,600mと細長い区画。「上高橋」では、東西約1,000m、南北約900mの方形に近い区画で、その中に約100m四方の字境が展開する。

現在の大刀洗町と北野町の境界は東西にほぼ一直線で延びているが、これは旧御原郡（大刀洗町側）と旧御井郡（北野町側）との境でもある。

下高橋上野遺跡は、古代において、筑後国御原郡に属する。御原郡は地形的には宝満川で東西に2分されている。「御原郡衙」として著名な国指定史跡小郡官衙遺跡⁽¹⁾は下高橋上野遺跡から北西方向に約3.5kmの宝満川の西側に位置する。小郡官衙遺跡の周辺には、大板井遺跡⁽²⁾や若山遺跡⁽³⁾・前伏遺跡⁽⁴⁾などで官衙的建物や古代道路と考えられる遺構が数ヵ所で発見されているが、小郡官衙遺跡の明確な範囲を示すには至っていない。三国丘陵では老司系瓦が出土した三沢栗原遺跡⁽⁵⁾や肥前国との境には官衙風な建物が発見された西島遺跡⁽⁶⁾が注意すべき遺跡である。山田寺系の古瓦を出土する井上廃寺⁽⁷⁾は下高橋上野遺跡から北方に約2km、宝満川の東側に位置する。井上廃寺周辺には井上廃寺と同様な古瓦を出土する遺跡が集中している。木簡や木製品を出土した井上薬師堂遺跡⁽⁸⁾、奈良時代の集落で井上廃寺の建設にかかわった集団の居住地と考えられる薬師堂東遺跡⁽⁹⁾、



小郡官衙遺跡全景

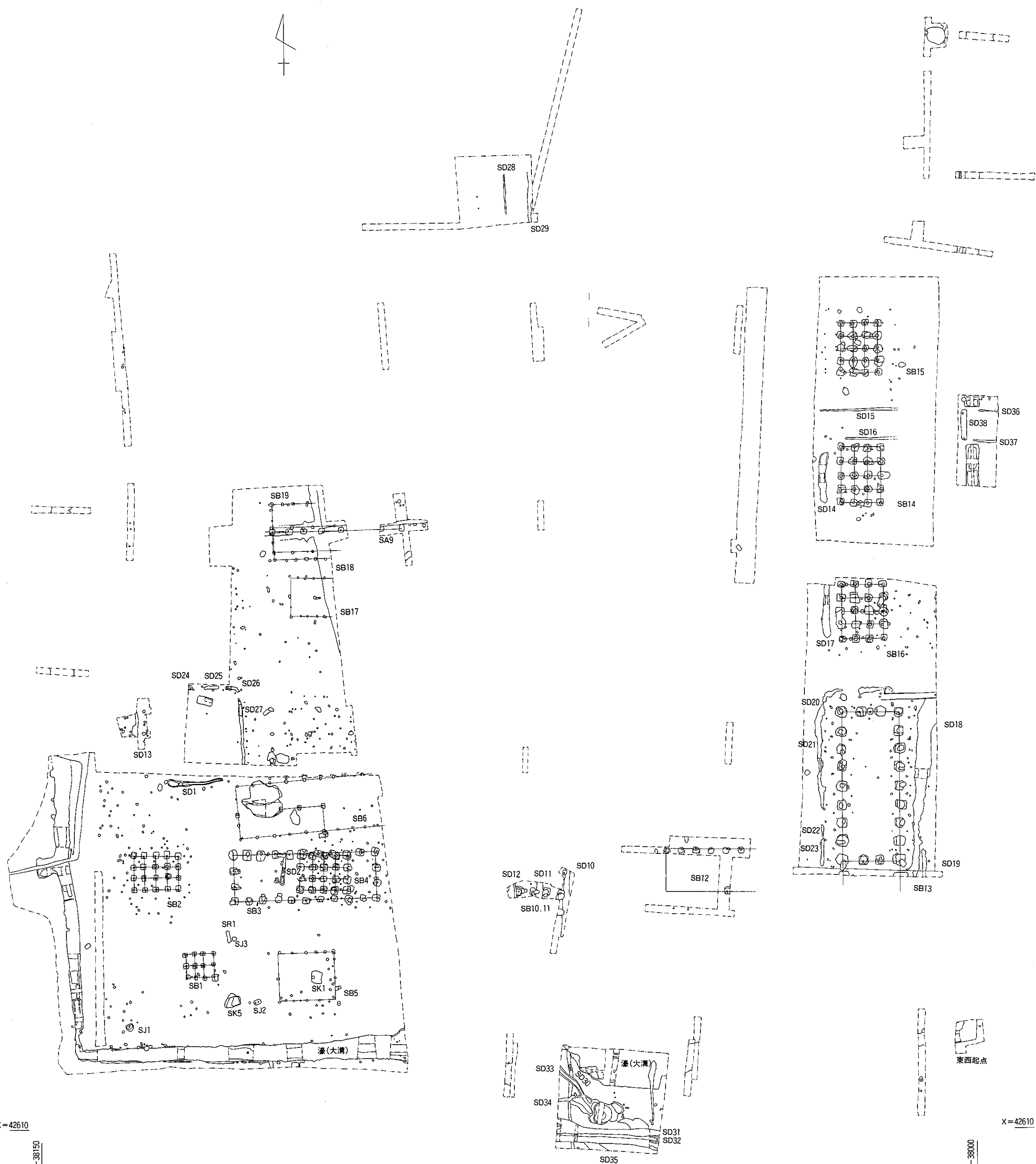
「日方郷」の比定地とされる干潟遺跡⁽¹⁰⁾・干潟城山遺跡⁽¹¹⁾などがそうである。また下高橋上野遺跡のすぐ東に隣接する下高橋馬屋元遺跡⁽¹²⁾は真北より東に5°ほど振った軸を主軸とし南北を濠で区画し、その区画の中に大規模な掘立柱建物群が発見され官衙の様相を呈しており、下高橋上野遺跡と密接あるいは一連の遺跡であったことが言えるであろう。下高橋上野遺跡の東方約3kmに位置する本郷野開遺跡⁽¹³⁾では弥生後期集落に混じり真北を主軸とした住居・掘立柱建物で構成する7・8世紀頃の集落が形成されているようである。

御井郡に属するが北野町古墳ノ上遺跡⁽¹⁴⁾は官衙風の建物配置をとり豪族の居館が想定される。

下高橋上野遺跡・馬屋元遺跡の所在する水田は、丘陵地で燼畑として土地利用されていたが、大正3年に電力による揚水機を設置した耕地整理事業⁽¹⁵⁾が行われ、水田化されたものである。現在「工事田」の通称で呼ばれている。

(注)

- (1) 工業善通ほか「小郡遺跡」1980 小郡市文化財調査報告書第6集 小郡市教育委員会
中島達也編「小郡遺跡Ⅱ」1988 小郡市文化財調査報告書第47集 小郡市教育委員会
中島達也編「小郡遺跡Ⅲ」1989 小郡市文化財調査報告書第56集 小郡市教育委員会
- (2) 速水信也編「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告(15)」1988 福岡県教育委員会
宮田浩之編「大板井遺跡Ⅹ」1981小郡市文化財調査報告書第76集 小郡市教育委員会
「大板井遺跡Ⅺ」小郡市教育委員会中島達也氏からご教示。「小郡官衙遺跡Ⅲ期と主軸が
同じ建物1棟。」1996調査
- (3) 速水信也編「小郡若山遺跡3」1994小郡市文化財調査報告書第93集 小郡市教育委員会
- (4) 高橋 章編「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告(11)」1987 福岡県教育委員会
- (5) 副島邦弘編「向築地遺跡」1979 小郡市文化財調査報告書第5集 小郡市教育委員会
- (6) 「西島遺跡5」小郡市教育委員会宮田浩之氏からご教示。「基肆駅？」1995調査
- (7) 小田富士雄「九州に於ける山田寺系垂木先瓦の発見」1961 歴史考古6
- (8) 緒方 泉編「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告(10)」1987 福岡県教育委員会
- (9) 中間研志・小田和利編「九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告(13)」1988 福岡県
教育委員会
- (10) 橋口達也・副島邦弘編「干潟遺跡Ⅰ」1980 福岡県文化財調査報告書第59集 福岡県教
育委員会
- (11) 柏原孝俊編「干潟城山遺跡Ⅰ」1994 小郡市文化財調査報告書第90集 小郡市教育委員会
- (12) 福岡県教育委員会北筑後教育事務所 赤司善彦氏からご教示。1996調査
- (13) 赤川正秀編「本郷野開遺跡」1993 大刀洗町文化財調査報告書第4集 大刀洗町教育委
員会
「本郷野開遺跡Ⅱ」大刀洗町教育委員会1995調査
- (14) 堀田秀茂編「古賀ノ上遺跡Ⅰ」1995 北野町文化財調査報告書第2集 北野町教育委員会
- (15) 大刀洗町郷土誌編纂委員会編「大刀洗町史」1981 大刀洗町



III 調査の概要

1 調査区・調査年度

平成4年度から7年度までの調査地点は年度別調査区位置図に示すとおりである。

2 主な出土遺構

掘立柱建物

掘立柱建物は新たに7棟を確認し、内訳は総柱建物が3棟、側柱建物が3棟、不明のものが1棟である。

SB10・11

遺跡推定範囲の中央南側に方形掘方を6基確認した。切り合い関係・柱穴の規模の相違から2棟以上の建物を想定できる。内1棟は少なくとも1回の建て替えの痕跡がある。建物の規模は不明。溝SD10とSD11を切る。



SB10・11建物柱穴検出状況（94-4トレンチ）

SB12

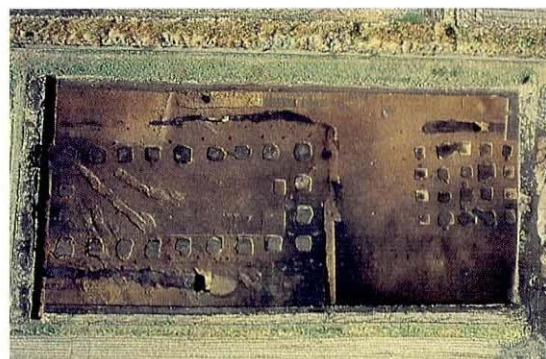
SB3の東約18mに位置する東西に長い建物で、3間×5間+ α である。掘方の規模はやや小さく1m弱の方形である。1回の建て替えがあり、建て替え後の柱痕は掘方北側に片寄っている。



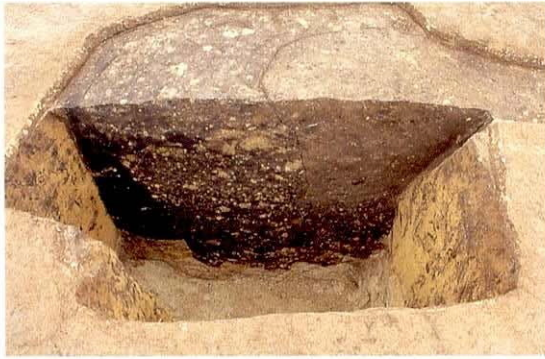
SB12建物建物検出状況

SB13

SB3の東約43mに位置する南北に長い3間×10間+ α の長大な建物。梁行9m（約30尺）桁行30.6m（約102尺）を測る。北から8間の位置に間仕切りの柱穴があり、北側梁列中央には棟持ち柱と思われるやや小振りな柱穴を持つ。柱穴間の内外に規則正しくピットが並んでいる。足場穴の可能性もある。建物の周囲には幅・深さが不揃いなSD18・19・20・21・22・23溝が廻り、雨落ち溝とすれば軒の長さが3mとなる当遺跡最大の建物である。建て替え痕が明瞭である。柱穴2基を断ち割りしたが、残存深さは1.35mで保存状態は極めて良好といえる。



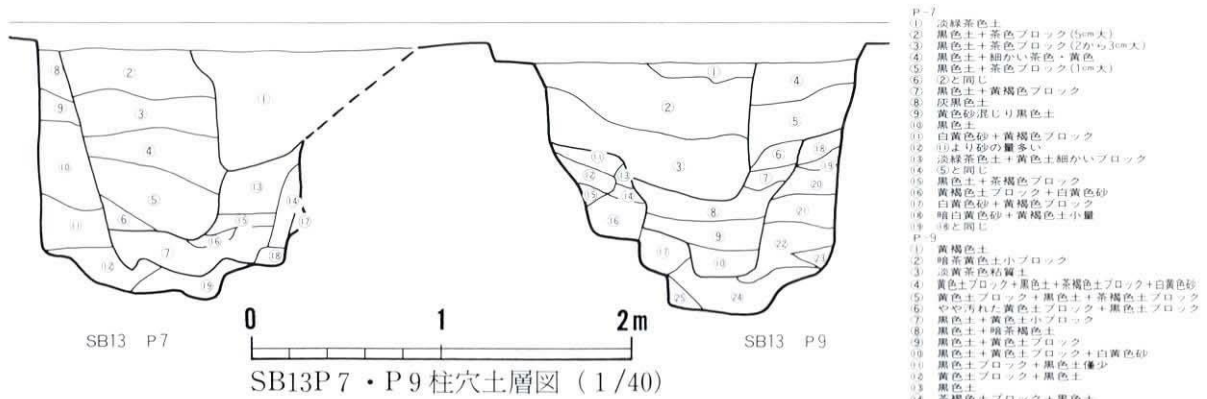
SB13・16建物全景



SB13P 7 柱穴断ち割り状況



SB13P 9 柱穴断ち割り状況



SB14・15・16

SB13の北側に、約12m離れてSB16・さらにSB14・SB15が12mの間隔で並ぶ。三棟とも桁方向は南北の3間×4間の総柱建物で、柱痕が明瞭なもので最大ものでは径約60cmを測る。一部抜き痕が認められるが建て替えの痕跡は不明。SB15・16は西側に溝を伴う。規模はSB14で梁行6m(約20尺)×桁行8m(約27尺)、SB15は梁行6.6m(約22尺)×桁行9m(約30尺)、SB16は梁行6.75m(約22.5尺)×桁行8.68m(約29尺)を測り、SB15とSB16の身舎面積はほぼ同一規模である。SB13・14・15・16は西側桁柱筋を揃えており、計画的な造営であったことがうかがいしれる。

SB15の2基の柱穴を断ち割り調査したが、残存深さは1.25mを測る。



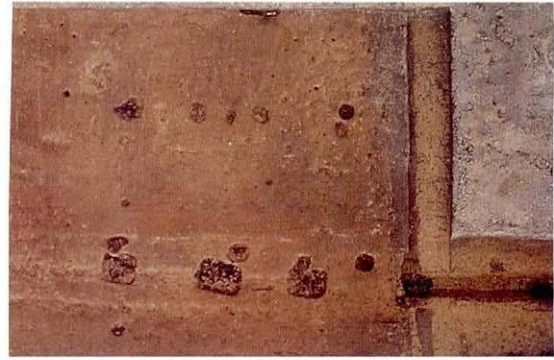
SB15P 5 柱穴断ち割り状況



SB14・15全景

SA 9

平成4年度調査区の北側に接して95-2調査区を設定した。調査区の北側寄りで東西一直線に並ぶ方形掘立柱掘方を5基確認した。この東延長上の93-11トレンチでも2基の方形掘立柱掘方を確認しており、従来建物と考えていたが柵であることが判明した。



SA 9 全景

濠（大溝）

平成4年度の調査で建物群範囲を区画する濠の南西部を検出しているが濠のコーナー部分を起点（以下「南西起点」と呼ぶ。）として真北方向にトレンチを2本真東方向に5本設定した。トレンチ当初は推定範囲を1町四方と考え設定しており、西側では、南西起点から北へ約100m地点で東方向に直角に曲がることを推定し93-18トレンチを設定した。起点から北の93-9トレンチと93-14トレンチで幅約3mの濠の平面プランを確認したが、その後東に曲がった痕跡は93-18で確認され



濠東南起点（コーナー）

ず、濠はさらに北へ向かっている。東側では南西起点から93-2・93-1のトレンチを設定したが濠はさらに東に延びており、94-1を超え94-2で北に直角に曲がることを確認した（以下このコーナーを「東南起点」と呼ぶ）。さらに94-6・94-7・94-8トレンチで幅約2mの濠のプランを確認し、濠は東南起点から北へ170m以上延び、遺跡北側の中島堤に及んでいる。

なお、93-4トレンチで確認した濠は、SD33・44に続くものと考えられ、濠ではないことが7年度調査で判明した。

出入口施設

西南起点と東南起点の中間よりやや東に95-1トレンチを設定したが濠は東から続き南に拡幅気味に広がる。約10mほど西に向かいその後徐々に狭くなる。トレンチの西端で幅約30～40cmの浅く蛇行した南北に長い溝SD30を検出した。遺構配置図を東西起点で折り返しSD30が東西対称にあると仮定すれば、幅約12mの溝で区画された「道路」的な遺構が想定でき、SD30は道路を区画する側溝の可能性も検討できよう。

東南起点から約100m北の95-4トレンチでは濠が約5mに渡り途切れ、陸橋が確認できた。陸橋



南出入口付近全景



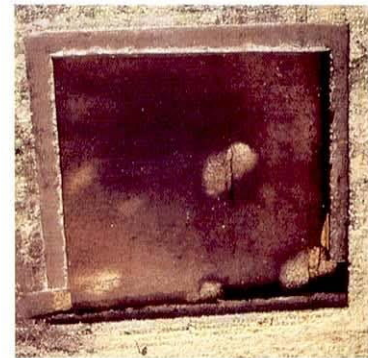
東出入口全景

部分に直交して幅約30cmのSD36・37溝が約4.5mの間隔をおいて平行に東から延び、濠に達する付近で途切れる。

濠の西側には南北約4.5mの長さにSD38溝を検出し、溝の西端に径約30cmのピット1対を検出した。この状況から平行するSD36・37溝は道路を区画する側溝で、1対のピットは門施設と考えられる。なお、SD36・37は西側のSD15・16へ続くものと考えられる。

その他

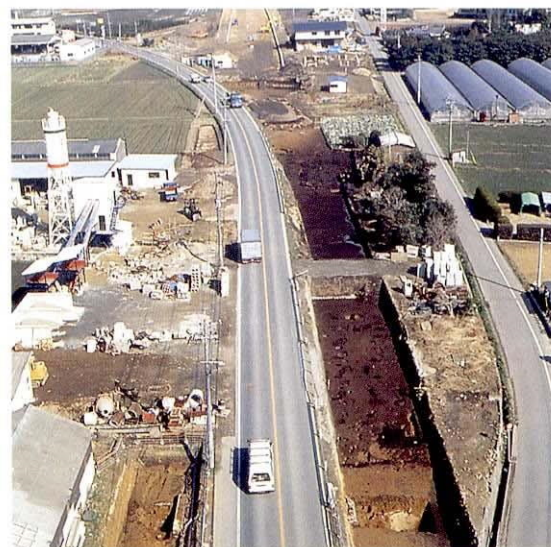
95-3トレンチでは真北方向に延びるSD28・29溝の2条を検出した。SD29溝は93-4トレンチのSD10溝・95-1トレンチのSD30溝と一直線上に位置にあたる。またSD28溝も94-4トレンチのSD11溝と関連が考えられる。



95-3 トレンチ全景

下高橋馬屋元遺跡について

下高橋馬屋元遺跡は、筑後小郡ICに接続する県道「筑紫野・久留米線」改良工事の事前調査として、福岡県教育委員会が実施している発掘調査で発見された遺跡である。幅約20mの道路部分を大刀洗町・小郡市境付近から南下しながら発掘調査は調査は進められている。遺跡の位置は下高橋上野遺跡の東を区画する濠から約170m離れた位置で、遺跡の南北を区画すると考えられる濠（外側は幅約4m、内側は幅約1mの各2条）が約170mの間隔で検出され、その区画の中央部分と南濠寄りに南北に長い大規模な掘立柱建物が確認された。掘立柱建物群と濠は現段階では8世紀中頃から9世紀後半までのものと考えられている。地籍図に照らし合わせると濠は現畦畔の区画をトレースでき、方形区画をなすものと想定されている。現在南北は1.5町で確定している。東西については馬屋元遺跡の東西の現町道が方位的にもその区画の可能性が高い。今後の調査により明らかになろう。



下高橋馬屋元遺跡全景

Ⅳ おわりに

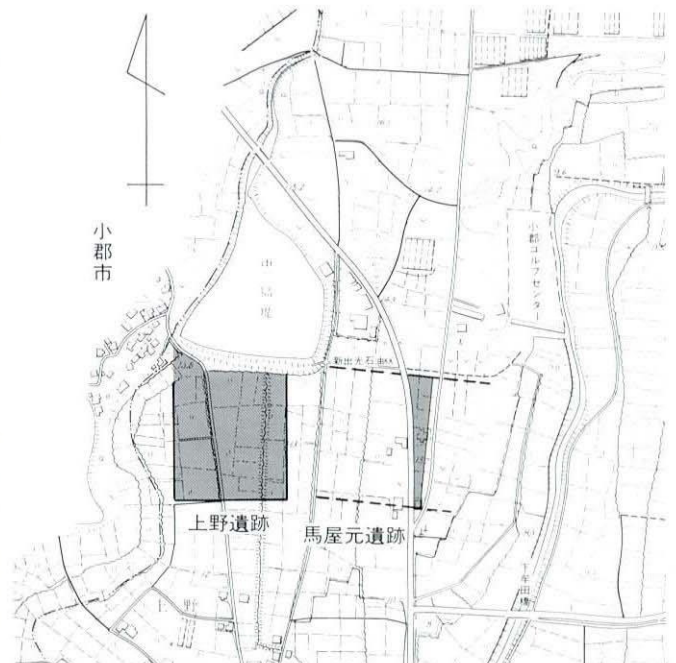
1 調査のまとめ

平成4年度に発見された「下高橋上野遺跡」は平成5・6・7年度の範囲確認調査でその範囲や建物配置など大きな成果をあげることができた。まとめて列挙すると

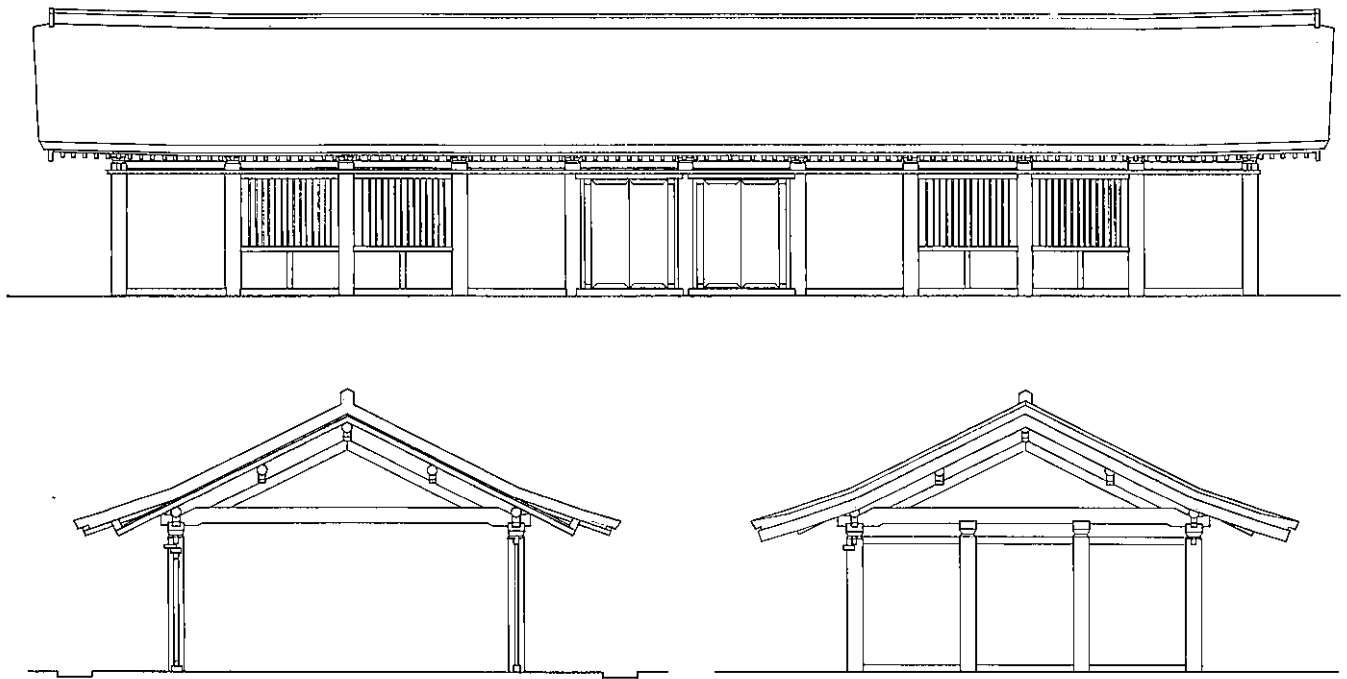
- ① 遺跡は濠で囲まれ、濠は東西150m、南北170m以上の長方形区画をなす。
- ② 濠の東面では東南起点から1町の地点に陸橋を確認した。
- ③ ②の地点で、東方向からの進入路の側溝SD36・37を確認した。
- ④ さらに門施設と考えられるピット1対を確認した。
- ⑤ 濠の南面中央部分で、濠が徐々に細くなり、進入路の側溝（片側）と考えられるSD30溝が見つかり、南入り口の位置がほぼ判明した。
- ⑥ ⑤のSD30溝の真北方向に約100m以上の直線上でもSD29が確認でき、連続するものであれば、官衙建設の計画線の可能性がある。
- ⑦ 大規模方形掘方柱穴の掘立柱建物も新たに7棟確認でき、合計11棟となった。そのうち6棟が総柱建物で、高床式倉庫とみられる。
- ⑧ 側柱建物は「屋」と考えられるが、SB13は、規模が飛び抜けて大きく、「屋」以外の性格を考える必要がある。
- ⑨ 建物群は柱筋を通して整然と配置されている。
- ⑩ 大規模方形掘方柱穴の掘立柱建物群（SB3を除く）と建物群を他と区画する濠は真北を主軸としている。
- ⑪ 建物群は、地形的に地盤のしっかりした個所に配置されているようで、左右対称の建物配置はとらない。
- ⑫ SA9は当初建物としていたが柵列であることが判明し、付近に柵を必要とする施設の存在が予想される。



下高橋上野・馬屋元遺跡周辺空中写真



下高橋上野・馬屋元遺跡周辺地形図（1/10,000）



下高橋上野遺跡SB13建物推定復元図（1/200）

- ⑬ 遺物量は極めて少なく、パンケース4箱ほどで、転用硯1点の出土があった。時期的には8世紀中頃のものがほとんどである。

以上のことからこれらの建物群と建物群を巡らす濠はまさに倉庫令にいう「倉庫」とみてほぼ間違いなく「正倉院」としてとらえられよう。しかも東に隣接して方形の区画が予想される郡衙施設の可能性が高い「下高橋馬屋元遺跡」が発見され、双方の遺跡を合わせ「郡衙」を形成していると考えられる。

2 今後の課題

当地は「和名類聚抄」にいう「筑後国御原郡」にあたるが、筑後国は現在の福岡県の筑後川以南の8郡と、筑後川を隔てて北に位置する御原郡、筑後川をまたぐ御井郡を合わせた10郡からなる。また御原郡は、太宰府の所在する筑前国、基肄城の所在する肥前国との国境にもあたる位置である。昭和42年（1967年）小郡官衙遺跡の発見以来「御原郡衙」として小郡官衙遺跡が比定される向きが多い。小郡官衙遺跡は3期に渡り造営されており、Ⅰ期は3棟の倉とその北限を区画する溝。Ⅱ期は「コ」の字状に配した建物群やそれらと柵で隔てた倉庫群で、主軸は大きく西偏する。Ⅲ期は四面庇の大規模な建物とその背後に並ぶ建物。西方の建物群、東方の建物群、北側には東西130m南北160m以上を区画する溝があり、主軸は真北である。溝で区画された内部には建物などは検出されていない。またⅢ期に相当する倉庫も発見されていない。それぞれの時期はⅠ期は7世紀中頃から後半、Ⅱ期は7世紀末から8世紀初めで、Ⅲ期は8世紀中頃から後半とされている。小郡官衙遺跡のⅢ期が下高橋上野遺跡と同時期で、その後やや遅れて下高橋馬屋元遺跡が造営されたと考えられる。小郡官衙遺跡はⅡ期の正倉は低地に立地していることや、Ⅲ期の遺構に軍事的色彩が強いとするなど、その性格を郡衙とすることに疑問視する意見もある。また、大規模な掘立柱建物が小郡若山遺跡、大板井遺跡など小郡官衙遺跡の周辺で発見されており、小郡官衙遺跡とどう結び付



下高橋上野遺跡SB14建物推定復元図（1/200）

けができるのか、さらに下高橋上野・馬屋元遺跡の発見により、「小郡官衙遺跡」と周辺遺跡・「下高橋上野遺跡」・「下高橋馬屋元遺跡」の3遺跡を含み御原郡の官衙の展開に新たな視点が与えられよう。

下高橋上野遺跡 掘立柱建物寸法一覧

建物番号	柱間間数	柱間寸法(m)		桁行 (m)	梁行 (m)	身舎面積		(桁方向)	間隔 (m)	備 考
		桁行	梁行			(㎡)	坪 (=3.3㎡)			
SB1	3×2	1.53	1.94	4.6	3.89	17.89	5.42	ほぼ真北	10	総柱 H4調査
SB2	4×3	1.88	1.82	7.52	5.48	41.21	12.49	ほぼ真北		総柱 H4調査
SB3	10×3	2.31	2.5	23.06	7.52	173.41	56.33	真北からやや西	9	SB4より新しい H4調査
SB4	4×3	1.93	1.85	7.74	5.54	42.88	12.99	ほぼ真北		総柱 SB3より古い H4調査
SB5	4(2)×4	—	—	9	7.85	70.65	21.41	ほぼ真北	46	小規模掘立柱建物 H4調査
SB6	8?×4	—	—	—	8.5	—	—	真北からかなり西		小規模掘立柱建物 H4調査
SB10	?	—	—	—	—	—	—	—	46	SB11より新しい H5確認
SB11	?	—	—	—	—	—	—	—		SB10より古い H5確認
SB12	5?×3	2.4	2.2?	—	6.6?	158.4?	48?	真北からやや西	53.5	H6確認
SB13	10?×3	3.06	3	30.6?	9	275.4?	83.45?	ほぼ真西		H6確認
SB14	4×3	2	2	8	6	48	14.55	ほぼ真西	12	総柱 H6確認
SB15	4×3	2.25	2.1	9	6.6	59.4	18	ほぼ真西		総柱 H6確認
SB16	4×3	2.17	2.25	8.68	6.75	58.59	17.75	ほぼ真西	12	総柱 H6確認

報告書抄録

ふりがな	しもたかはしうえのいせきⅡ							
書名	下高橋上野遺跡Ⅱ							
副書名	福岡県三井郡大刀洗町大字下高橋所在遺跡の調査概報(平成5・6・7年度調査)							
巻次	Ⅱ							
シリーズ名	大刀洗町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第10集							
編著者名	赤川正秀							
編集機関	大刀洗町教育委員会							
所在地	〒830-12 福岡県三井郡大刀洗町大字富多819 TEL0942-77-2670							
発行年月日	西暦 1996年3月31日(平成8年3月31日)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
しもたかはし 下高橋 うえのいせき 上野遺跡	ふくおかけん み い ぐん 福岡県三井郡 たちあら い まち おお あ ぎ 大刀洗町大字 しもたかはし 下高橋	40503	0012	33度 23分 02秒	130度 35分 24秒	19931118～ 19931124 19941101～ 19941229 19951114～ 11960322	200 2,287 1,761	範囲確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
下高橋上野 遺跡	官 衙	奈良	掘立柱建物 濠 溝 ピット群 落とし穴	須恵器 土師器 古瓦			奈良時代の官衙遺跡 濠で囲んだ方形区画の 中に大規模な掘立柱建 物群。「正倉院」	
印刷	株式会社チューエツ 〒812 福岡市博多区東比恵2丁目9-1 TEL092-411-8367							